

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策I-1-1 企業の競争力強化
---------	---------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	木材振興室長 日下淳一	電話番号	0852-22-5156
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	中海水中貯木場管理運営		
目的	(1) 対象	合板製造業	
	(2) 意図	合板用原木の安定確保を図るため、貯木場の適切な管理運営を目指す	
事業概要	中海水中貯木場の適切な管理運営をするために、巡視活動、施設の修繕、水質・底質調査などを行う。		

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 安全な施設管理	目標値		120.0	40.0	40.0	40.0	回
		取組目標値						
	式・定義 施設巡回回数	実績値	120.0	120.0				
		達成率	-	100.0	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	53,727	95,615
うち一般財源 (千円)	3,127	6,715

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

中海水中貯木場は、利用する原木の変更に伴い利用が減少し、H24から利用されていない。貯木場利用が休止する中で、施設の老朽化が進み、荒天時にはパイ・フローター等が流出する状況となっている。老朽化したパイ・フローター等を撤去することについて方針決定し、H28当初予算で浮遊施設撤去工事が予算措置され、平成29年度内に完了する予定である。

## 6. 成果があったこと(改善されたこと)

施設が老朽化するなかで、巡視員が巡視活動中に施設修繕(応急措置)を行うことで施設を維持できた。  
これにより、パイ・フローター等の流出はなかった。

## 7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

### ①困っている「状況」

H24から利用されていないため、利用料収入をもって施設を運営・管理することが困難である。合板製造業者が利用を再開した場合、貯木場として十分な施設となっていない。

### ②困っている状況が発生している「原因」

合板工場が原材料を南洋材から国産材へシフトしたため、H24からの貯木場利用がなかった。当面、合板製造に係る原材料の樹種が変更される予定はなく、貯木場利用は見込めない状況にある。

### ③原因を解消するための「課題」

将来的な木材需給の動向が不透明であり、合板製造に係る原材料が変更される可能性もあることから、貯木場利用の再開に備えて、河川占用を継続する必要がある。

## 8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

浮遊施設撤去工事後は、必要最小限の施設管理を継続する。